

## TAT 物語からみたアレキシサイミア特性者の空想の様相

山 田 優 子

### 問題と目的

アレキシサイミア (Alexithymia; 失感情言語化症) とは、感情を認識し表現することの困難さと、空想生活の貧困さ、外的に方向付けられた認知スタイル、という認知面と感情面の特徴である (Sifneos, 1975)。現在アレキシサイミア傾向を測定するには、TAS-20 という質問紙が最も一般的であるが、その中に空想生活の貧困さに当たる因子は含まれていない。そこで、本研究では①質問紙調査によって、一般大学生のアレキシサイミア傾向の実態を明らかにすること②アレキシサイミア傾向の高い群の空想の様相について、テキストマイニングという客観的な指標を用いて内在的なパターンやトレンドを発見することを目的とする。

### 方法

#### 使用尺度

##### ① TAS-20

Taylor らの簡易版 Toronto Alexithymia Scale (TAS-20) の日本語版 (小牧ら, 2003) を用いる。

##### ② SIBIQ

SIBIQ は有村ら (2002) が作成した半構造化面接である。本研究では、一般大学生を調査の対象としているため、質問項目のうち、主訴および発症のきっかけとなる出来事についての質問を省いて面接を行った。

臨床心理学を専攻する大学院生 3 名に SIBIQ の中に組み込まれている改訂版 BIQ に回答を依頼した。

##### ③ TAT

Hartman の Basic TAT Set (1970) の 1,2,3BM, 4,6BM, 7BM, 8BM, 13MF に加え、一木 (2006) が物語を作ることが比較的容易な図版であるとした 12BG, 16 (1,2,4 は重複) を加えた計 10 枚を使用する。

#### 実施方法

Qualtrics を用いてオンライン調査を行った。東海地区の大学・大学院、および専門学校に通う学生 171 名 (男性 61 名, 女性 108 名, その他 2 名) からデータを収集を行った。調査では、TAS-20 に加え、性別、年齢、学校名を尋ねた。その際に追加調査を依頼し、承諾を得られた参加者 29 名を面接実施の対象とし、SIBIQ と TAT を実施した。なお本調査は、名古屋大学大学院教育発達科学研究科研究倫理委員会によって承認された。(承認番号: 1196)

### 結果

オンライン調査では合計点、各因子共に先行研究とほぼ同じ平均値が得られた。

TAS-20 をカットオフの 58 点を基準に、59 点以上を TAS-20 高群、58 点以下を TAS-20 低群とした。さらに、平均値を基準に 46 点以上を SIBIQ 高群、45.9 点以下を SIBIQ 低群とした。この 2 つの組み合わせで、TAS-20 高群かつ SIBIQ 高群 (以下 HH 群,  $n = 7$ ), TAS-20 高群かつ SIBIQ 低群 (以下 HL 群,  $n = 4$ ), TAS-20 低群かつ SIBIQ 高群 (以下 LH 群,  $n = 8$ ), TAS-20 低群かつ SIBIQ 低群 (以下 LL 群,  $n = 10$ ) の 4 群に群分けをした。この 4 群を基準に TAT データをテキストマイニングの手法で分析した。

階層的クラスター分析を行い、抽出された語をクラスターに分類した。クロス集計を行った結果、図版 2 の「外界圧力の認知」のクラスターと ( $\chi^2 = 7.96, p < 0.5$ ), 図版 13MF の「隠れる」というクラスターと ( $\chi^2 = 8.514, p < 0.5$ ), 図版 16 の「キャンパス」というクラスター ( $\chi^2 = 10.184, p < 0.5$ ) において、群間で有意傾向が示された。またクラスター間の関連を調べるため、図版毎に共起ネットワークを作成した。

### 考察

アレキシサイミア傾向の意識化されている部分を TAS-20 が、無意識の部分を含む部分を SIBIQ が表していると考えられる。アレキシサイミア傾向は、そもそも自己の感情同定困難や外的志向を含む傾向であるため、自己評定することは難しい傾向であると考えられる。しかし、感情の伝達困難や日常生活に困難を来すほどの感情同定困難は自覚されると考えられるため、その手軽さと合わせて TAS-20 は臨床群のスクリーニングを行う際には極めて有用な方法であると考えられる。

アレキシサイミア傾向の SIBIQ と TAS-20 の測定している部分のずれを含めて、TAT を基にアレキシサイミア傾向の高い群の空想の様相について調査した。LL 群は、TAT の語りの中でも、TAS-20 の因子である「感情の同定困難」「感情の伝達困難」「外的志向」の低さがうかがえた。また、語りの内容も豊かであった。LH 群は自分では、感情の伝達や感情の同定には困難を感じていないために、困り感がなく、アレキシサイミア傾向が低いと感じているのではないかと考えられる。また、LH 群は

## TAT 物語からみたアレキシサイミア特性者の空想の様相

視覚情報からあまり発想を広げることができない群であり、TAT 物語を「過去」「現在」「未来」の3部分に分けるとすれば、図版の説明に当たる「現在」の部分にまつわる空想は可能であったり、登場人物の内面にも言及することができるものの、「現在」から時間的に遠くなるほど想像を広げるのが難しいのではないかと考えられる。HL群は、感情語は多く出たものの、ネガティブな感情の表出や認知が多かった。また、図版の枠組みに囚われてしまい、空想の自由度が狭まってしまっている可能性が示唆された。さらに、社会的望ましさの影響も強く受けている群であるのではないかと考えられる。HH群は、全体を通して、端的な言葉での図版説明が多かったが、その内容自体は無難なものが多く、出現するカテゴリー的にはLL群と近いものも多かった。一方で、LH群と同様に「現在」から時間的に離れると、想像を広げるのが

難しくなる可能性が示唆された。また、感情語は図版の説明に伴う語であれば、他の群と同様に出てきており、感情語の量だけでアレキシサイミア傾向を見るというのは難しいのではないかという可能性が示唆された。

今後は、質問紙法、構造化面接の長所、短所をそれぞれ理解しながら、TATを含めてアレキシサイミアの適切なアセスメント方略の検討が望まれる。また大規模なサンプルの調査でアレキシサイミアの実態を明らかにすることが必要である。

### 主な参考文献

Akimoto M, Fukunishi I, Baba T, Matsumori M, Iwai M (2002). Alexithymia and socultural factors in a Japanese sample: a study with the Rorschach, *Psychological reports*, 90, 205-211.